

「当院における胃瘻造設患者の検討（ALS 患者の胃瘻造設時の特徴）」

1. 研究の対象

2018年12月～2024年2月まで当院で胃瘻造設を行った患者さん160例を対象とします。

2. 研究目的・方法

【目的】

筋萎縮性側索硬化症(ALS)の治療指針では、嚥下障害を認めた場合には早期に胃瘻を考慮するとされています。また、努力肺活量が低下すると胃瘻造設後の生命予後が悪くなるため50%を切る前の造設が望ましいとされています。

呼吸抑制を認める患者への胃瘻造設は、鎮静剤による呼吸抑制の危険を伴うことから安全に胃瘻造設を行うにあたり、呼吸抑制を回避することが重要と考えています。

今回の調査より胃瘻造設時の呼吸抑制の状況を調査することを目的としています。

【方法】

胃瘻造設を行いました患者さんを対象に、臨床データについて情報を収集します。主要評価項目として呼吸抑制を生じる割合を設定しています。今回の研究は通常診療で得られた既存情報を用いた観察研究です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

通常診療にて実施する検査の結果をはじめとする記録済臨床データを使用します。患者さんの照合のために使用する情報は登録番号と被験者識別番号のみです。氏名、生年月日、イニシャル等は使用しません。

4. 外部への試料・情報の提供

上述する試料ないし情報の外部への提供に関しては、本研究において行いません。

5. 研究組織

市立吹田市民病院のみで実施する研究であり、企業からの資金提供を受け実施する研究ではありません。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

研究責任者：

市立吹田市民病院 消化器内科 長生 幸司

〒564-8567 大阪府吹田市岸部新町5-7

TEL:06-6387-3311